

神奈川県立伊勢原支援学校 第1回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を次のように開催した。

名称	神奈川県立伊勢原支援学校 第1回学校運営協議会
開催日時	令和5年6月7日(水) 9:30~11:00
開催場所	神奈川県立伊勢原支援学校 会議室
出席者	学校運営協議会委員8名 学校事務局8名
次回予定日	令和5年10月下旬(調整中)
問合せ先	神奈川県立伊勢原支援学校 副校長 吉田浩司 電話 0463-93-7928 FAX 0463-93-2457
議題	令和5年度 学校運営協議会 第1回会議についての確認 ・学校運営協議会委員及び学校事務局教員の紹介 ・会長、副会長、設置部会等の運営計画の承認 ・年間計画 学校評価部会 ・令和5年度 経営方針、重点目標等について ・学校評価(目標設定)について ・不祥事ゼロプログラム行動計画 切れ目ない支援部会 安全防災部会
審議(会議)経過	【学校運営協議会】 (1) 校長挨拶 今年度より校長に着任しました。よろしくお願いいたします。 今年度第1回学校運営協議会にご都合をつけてご参加いただきありがとうございます。 この後各担当より今年度の取組みについて説明する。また文部科学省の人権教育研究指定校として、今年度と来年度取り組んでいく。スローガンを「違いや良さを認め合い、他者と協力して未来を切り拓く力の育成」とし、キャラクターも使用して子どもたちと楽しく進めていく。 4年計画の学校教育計画は今年度が最終年度となり、来年度は次期4年間の計画をたてる。皆さんのご意見をいただきながら検討していく。 人権教育研究は厳密には1年ごとで計画。校内外で人権に関する研修も行う。取組や研修を公開し、人権意識の向上につなげていく。委員の方に企業の視点から人権意識向上に向けご協力いただく予定。皆さんのご意見も聞かせていただく。 コロナ対策が緩和され、宿泊学習・修学旅行・同窓会が数年ぶりに行われた。プール指導も再開する。まだ、感染症は無くなっていないので、対策を取りながら進める。

地域との関りも進めていく予定。協議でのご意見よろしくお願
いいたします。

(2) 学校職員の紹介
自己紹介

(3) 学校運営協議会委員自己紹介
欠席者は学校より紹介

(4) 学校運営協議会について
*PP資料・資料2 に沿って説明 (副校長)

(5) 学校経営について
○経営方針、重点目標等について (校長)
*PP資料に沿って説明
三つのキーワード「みとめ合い」「ささえ合い」「たたえ合い」
人材育成のポイントにもなる。

○学校評価 (目標設定) について (副校長)
*PP資料・資料5に沿って説明
昨年度の評価をもとに、各視点で目標としていくポイントを説
明。

1-①書式を統一した年間指導計画に基づいた系統的な指導
を目指す。

1-②ICT機器利活用を推進。

2-①アセスメントの個別教育計画への活用と指導・支援につ
なげることを目指す。

2-②人権教育を意識した、主体的・対話的な活動を引き出す。

3-①小学部から高等部までの系統的な指導・支援を目指す。

3-②効果的な保護者との連携に向けた情報発信。

4-①学校運営協議会委員との連携を踏まえ活動を拡大する
ことを目指す。

4-②地域の支援教育体制構築に向けて取り組んでいく。

5-①地域と連携しながら災害対応力を高める取組を進める。

5-②事故・不祥事防止に向け、同僚性を高める学校づくりを
行う。

○各学部・グループの取組について (GL)

*PP資料に沿って説明

補足 (校長):「企業と語ろう in 湘南中西部」は県内をブロッ
クに分けて行う。地域の小・中学校の保護者にもどのような教育
がよいのか企業よりアドバイスをもらえる。今後、HP などでも

広報していく。

【質問】 委員

資料5は文字が多くて分かりにくさもあるが、県の書式のため県立学校は使用している。シンプルに児童・生徒へめざす思いは何か。

(副校長)

自立と社会参加へ向けた教育活動を行う。

(教務GL)

学びの系統表(資料追加)が学びのポイントとなっている。「自己実現(右下)」が目指すところ。

【質問】 委員

人権教育について詳しく聞きたい ⇒ この後説明

○人権教育研究指定校事業について(中学部長)

*PP資料に沿って説明

外部講師なども呼んで、指導内容を高めていく。日々の指導を通して深めていく。

【質疑】 委員

県立施設は虐待案件発生以来、毎月話し合い等を行い、人権意識についても確認している。職員間では意識の高まりがあるが、子どもたちの意識はまだまだである。

子どもたち向けのプログラムなどもあるのか。

(中学部長)

1年目は教員間で指導内容を整理していく。2年目に向けて実践する予定。

(総務GL)

人権教育研究計画(追加配付)項目2のように、教員の意識を高め指導に落とし込み、生徒の意識へつなげていく項目もある。1-CのようにSNSの活用等は、外部講師などを招いて、生徒向けに「自分を守る」視点で今年度から取り組む項目もある。項目によって進め方が異なる。

【質問】 委員

いじめについての項目があるが、現在いじめはあるか。また、あった場合の受け皿などを知りたい。

(教育推進GL)

現在は無い。システムとしては「いじめ防止検討会議」で対応策を検討する。

学校生活アンケートで、生徒の状況を汲み取り、必要な部分を

共有・対応している。

(6) 不祥事ゼロプログラム行動計画

*PP資料に沿って説明(副校長)

ひやりはっと案件はあったが、事故は起きていない。

研修を予定し不祥事ゼロをめざす。

(7) 切れ目ない支援部会

*PP資料に沿って説明(副校長)

地域と交流を深めていく。

(8) 安全防災部会

*PP資料に沿って説明(副校長)

PTA「ぼうさいまつり」を企画している。

(委員)

PTA行事はコロナ対策で制限されていた。役員決めも大変な中なので、せっかくであれば「子どものためになることをやりたい」と考えて企画した。

支援学校のことを知ってもらうとともに防災と絡めてスキルをあげていくことを目指す。

「災害時に我が子がどうなるのか」まずはいろいろ体験しておくことが大切だと考えている。今年度は本校在校生を対象に行い、次年度以降地域に広げていく予定。

(9) 意見交換・熟議

(委員)

二校連絡会も復活し、少しずつ連携の取組みを増やしていきたい。体育祭に分教室生徒も高校生の組分けと一緒に参加したことで、お互いに応援などできた。PTA活動で学校を地域に知ってもらうことはとても大切だと感じている。コロナ禍ではできなかった地域に開かれた学校の取組みができるようになってきた。小さいところから広げていくのは大切。

(委員)

昨年七沢学園と玉川小の交流により地域とのつながりができ、感謝している。学園では、地域のつながりが少ない中で、交流により広がった。また、玉川小の教員より見学の依頼がきたことで、つながりが広がっている。

(委員)

我が子が自力通学する中で、通学路のどこが危険なのかを確認した。T字路の交差点や横断歩道が見えにくい箇所などがある。

地域の方にも見守って欲しい。

地域の先生方に支援学校の指導スキルを学んで欲しい。HPに掲載している情報（進路など）などもあるので、高等部に入ってから知るのではなく、支援級の子ども以外でも情報をキャッチして欲しい。

（委員）

巡回相談で学校がお世話になっている。市内では、支援の知識等なくても支援級の担任になる教員もいる。今後も相談支援などを一層活用しつつ、説明会なども活用していく。

（連携支援GL）

巡回相談では個別のケースに対応している。定期巡回はテーマに合わせた支援を行っている。学校のニーズに合わせた対応を進めている。小・中学校の先生方の声を拾えるよう周知して欲しい。

（教頭）

より関係を深めていけるようにしたい。

（委員）

学校の取組みは丁寧に進められている。不祥事ゼロはヒヤリはっとで見つけられたからである。PTAの防災はよい取組み。今後、地域の事業所なども合同開催できるかもしれない。

（校長）

特別支援学校の現状として、専門性が高い教員ばかりではない。初めての教員・交流教員などいる中で、茅ヶ崎などでは支援学校から地域への交流体制なども進めている。地域の学校事情に合わせ。少しでも学校力を上げるために定期巡回などを活用して欲しい。全ての学校・ケースに手は届かないが、できる限り支援し、全県には時間はかかるが続けていく。この学校で、どのような子どもを育てていくか 資料4のグランドデザインが学校の取組みでもある。4年前のデザインなので、次年度は新しいものを考える。

「自立と社会参加」は一人で生きていくことではない。人に頼るネットワークを作る＝社会参加自分から困っていることを発信する力をつけること、自分の考えを発信していくことが必要。

（10）事務連絡

（副校長）

2回目は10月の終わりごろを予定している。候補日をあげ確認して調整する。